

論文

縄文文化世界遺産登録に向けた取り組みと観光への期待

Local Activities to Nominate World Cultural Heritage Site
—case study of Jomon Archaeological Sites in Hokkaido and
Northern Tohoku

大 橋 美 幸

OHASHI Miyuki

抄録

北海道・北東北の縄文遺跡群は世界遺産への登録を目指している。各地の取り組みのインタビュー等を行った。webサイト、ガイドブックが作られ、ガイドの育成、発掘や土器野焼き等を行う観光商品の販売等がされている。

加えて3つの調査を行った。首都圏（ツーリズムEXPO来場者調査）における縄文遺跡群の認知度は「三内丸山遺跡」でさえ3人と1人と低くなっていた。業界・プレスの認知度も高くなく、業界・プレスに焦点をしばったPR活動が求められる。

地元（函館での縄文文化関連イベントの来場者調査）では世界遺産を目指していることをおおよそ知っており、近隣の関連施設に行っている。取り組みに参加したいがしていないが2割であり、参加の機会が求められる。

地元への観光客（函館での縄文文化関連施設の観光客調査）からは、施設は縄文遺跡群と一連のものとしてとらえられていなかった。包括的につなげる仕組みが必要である。近隣の観光周遊はされており、移動手段等に改善が求められる。

キーワード：縄文、世界遺産、遺跡、北海道

1. はじめに

2018年2月現在、日本の世界遺産は21件を数える。近年では、2015年に明治の産業革命遺産として軍艦島を含む23施設、2016年に日本を含む7か国でル・コルビジェの建築作品が世界遺産として登録されており、複数か所での登録が多くなっている。

世界遺産になるためには、世界遺産条約の締約国が世界遺産の登録審査に推薦するための暫定リストを作成し、その中から1年に1つの遺産をユネスコ世界遺産センターに推薦する。推薦された遺産は専門機関が現地調査を行い、文化遺産であれば国際記念物遺跡会議ICOMOSが審査し、その後、世界遺産委員会が世界遺産リストへの登録を決定する。

2018年2月現在、日本の暫定リストに8件があがっており、古都鎌倉の寺院等、彦根城、平泉等と並んで、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」がある。縄文遺跡群は2009年に暫定リストに登録されたものの、その後の推薦にいたっていない。

世界遺産には観光効果が期待されており（長谷川（2010）、澤村（2016）、小室（2015）等）、登録に向けた各種の取り組みが行われている（木曾（2015）、佐滝（2009）、読売新聞（2015）等）。

今回、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」を取り上げて、取り組みの状況、観光に向けた現状評価と課題をまとめる。

2. 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群

縄文遺跡群は、青森市の三内丸山遺跡、函館市の大船遺跡等の17か所の遺跡から構成される。遺跡は、北海道（函館市、千歳市、伊達市、洞爺湖町）、青森県（青森市、弘前市、八戸市、つがる市、外ヶ浜町、七戸町）、岩手県（一戸町）、秋田県（鹿角市、北秋田市）にわたっている。ドングリ、栗、クルミ等を採取して、紀元前1万3000年前から、稲作が広まる紀元前300年前まで、約1万年にわたって定住してきた。集落があったところには大規模な盛土やストーンサークル（環状列石）等も見られる。

世界遺産登録に向けた各地の取り組みを、訪問インタビュー、イベントの視察、資料から紹介する。

北海道、青森県、岩手県、秋田県と関連14市町が合同で取り組みを行っている。青森県に事務局があり、縄文文化の世界遺産登録に向けて、ガイドブックや土偶図鑑等を作成して配布し^{1、2)}、市民向けに世界遺産講座を実施している。2017年1月には国際フォーラムも行われた³⁾。縄文文化を紹介するキッズサイト「JOMONぐるぐる」等をつくり、プロモーションビデオをYOUTUBEで公開している^{4、5)}。

個別には、北海道ではガイドブック等を作成し、世界遺産登録推進フォーラム、ワークショップ等を行っている。札幌発着で帯広や余市等の遺跡をめぐる日帰り・宿泊観光コースをつくって販売しており、発掘や縄文土器野焼き等の体験をすることもできる^{6、7)}。

青森県では、TVのPR番組やCM、専用サイト「縄文ファン」、縄文ケーキづくり等のフォーラムで地元向けの普及啓発を行っている。ポスターだけでなく青森空港等での電飾看板、青い森鉄道のラッピング列車等も行っている。企業や団体から上限150万円で共同の取り組みを募集し、パン屋と土偶パンを商品化したり、フリーペーパーで縄文文化を特集したりしている⁸⁾。県内8遺跡で保存活動を行っているボランティア等向けに、ボランティアガイドの姿勢や体験型プログラム開発等を伝える研修会を実施し、上限50万円でイベントを募集し、大森勝山遺跡でジャズコンサートを開いたり、亀ヶ岡石器時代遺跡で高校生が遺跡を案内するウォークを実施したりしている⁹⁾。

また、景観計画策定ガイドラインの中で、遺跡群の景観を守る取り組みを行っている¹⁰⁾。

岩手県では、市民向けのフォーラムや出前講座等を行っている¹¹⁾。

同じく、秋田県では、市民向けのフォーラム等を行っている¹²⁾。

なお、世界遺産の暫定リストに登録される以前から、全国の縄文遺跡をもつ自治体が参加して縄文都市連絡協議会がつくられている。暫定リストの遺跡を有するところだけではなく、宮城県の東松島市、新潟県の糸魚川市、長野県の塩尻市、鹿児島県の霧島市等が参加している。1998年の青森県で行われた縄文シティサミットから、毎年、持ち回りでサミットを行っており、2017年には函館で行われた。

また、市民活動において、北の縄文文化回廊づくり推進協議会がつくられている¹³⁾。青森では青森市で「三内丸山応援隊」がボランティアガイドを行い、イベ

ントやワークショップを実施している⁸⁾。八戸では「八戸縄文保存協会」が、国宝「合掌土偶」を展示する是川縄文館でイベントを行ったり、ボランティアを手伝ったりしている¹⁴⁾。岩手県では「御所野遺跡を支える会」が、ボランティアガイドを行い、竪穴住居の維持管理等を行い、「御所野発掘友の会」が御所野縄文公園の草刈り等をしている¹⁵⁾。

国際的な取り組みとしては、暫定リストに登録された同年に青森県、北海道、岩手県、秋田県が参加して縄文遺跡群世界遺産登録推進本部をつくっており、縄文文化の説明会をロンドンやパリで開いたり、海外の専門家を招聘したりしている。地元や東京で国際会議を開いたり、世界遺産の専門家会合に参加してプレゼンテーションを行ったり、文化遺産を審査する国際記念物遺跡会議ICOMOSの総会に参加したりしている¹⁶⁾。

3. 認知度の現状評価

3.1 調査方法

2017年9月、東京ビックサイトで行われたツーリズムEXPOにおいて来場者アンケートを行った。ツーリズムEXPOは旅行業者や関心がある人たちが訪れており、必ずしも縄文文化や世界遺産に関心がある人たちではない。また、東京で行われており、首都圏からの来場が多いことが考えられた。業界・プレスへの公開日と一般参加日が異なっており、分けて集計を行った。

調査項目は、回答者基本属性（性別、年代、居住地）、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の認知度、世界遺産登録を目指していることの認知度・知った経緯である。

3.2 回答者基本属性

業界・プレス141人、一般参加250人、合計391人。

男性149人（38.4%）、女性239人（61.6%）。6割が女性である。

業界・プレス、一般参加で差は見られない（ $\chi^2=2.58$, $df=1$, $p>0.05$, ES: $\phi=0.08$, $1-\beta=0.35$ ）【図表3.1】。

年代は19歳以下18人（4.6%）、20代75人（19.3%）、30代96人（24.7%）、40代89人（22.9%）、50代77人（19.8%）、60代26人（6.7%）、70歳以上7人（1.8%）。30代が最

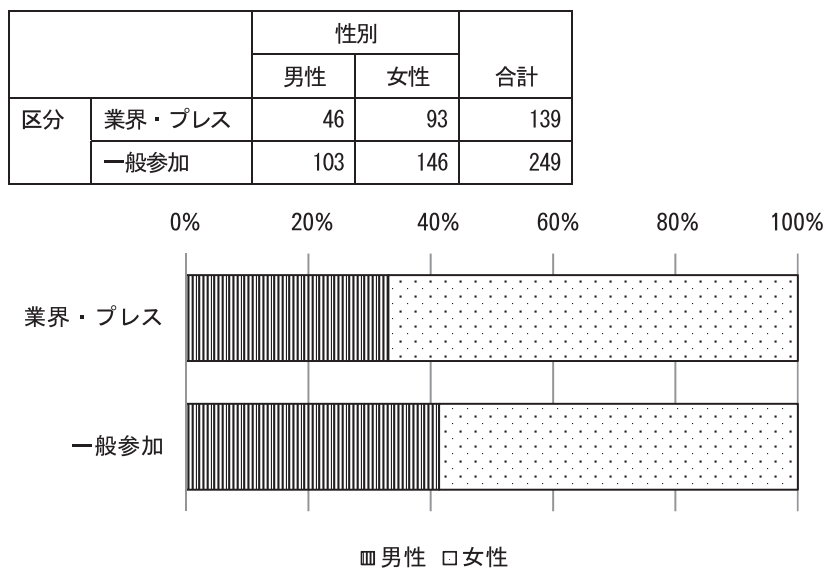
も多く、40代、50代が続く。幅広い年代にわたっている。

業界・プレスは20代が多く、一般参加の方が年配である（ $\chi^2=32.89$ 、 $df=6$ 、 $p<0.01$ 、残差分析で業界・プレスの20代が多い、 $p<0.01$ 、ES:Cramer'sV=0.14、 $1-\beta=0.48$ ）【図表3.2】。

居住地は、東京都158人（41.9%）、神奈川県53人（14.1%）、千葉県59人（15.6%）、埼玉県49人（13.0%）、他の道府県58人（15.4%）。ほぼ首都圏であり、他の道府県は、北海道10人、茨城県15人、群馬県4人、滋賀県4人等であった。

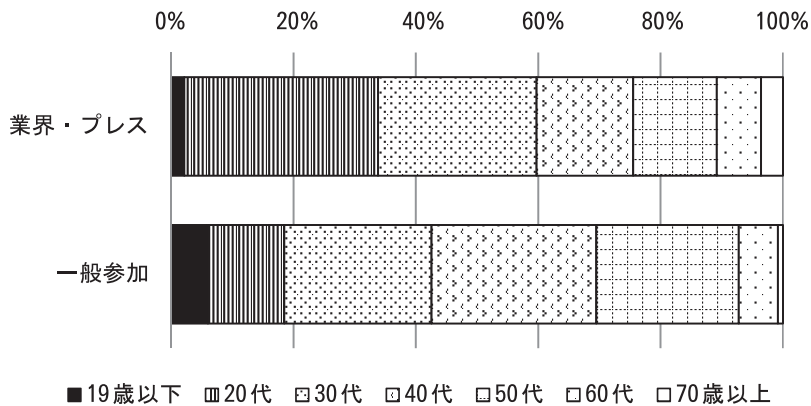
業界・プレス、一般参加ともに東京が4割台であり、他の道府県も1～2割あり、差は見られない（ $\chi^2=7.49$ 、 $df=4$ 、 $p>0.05$ 、ES:Cramer'sV=0.14、 $1-\beta=0.58$ ）【図表3.3】。

図表 3.1 性別



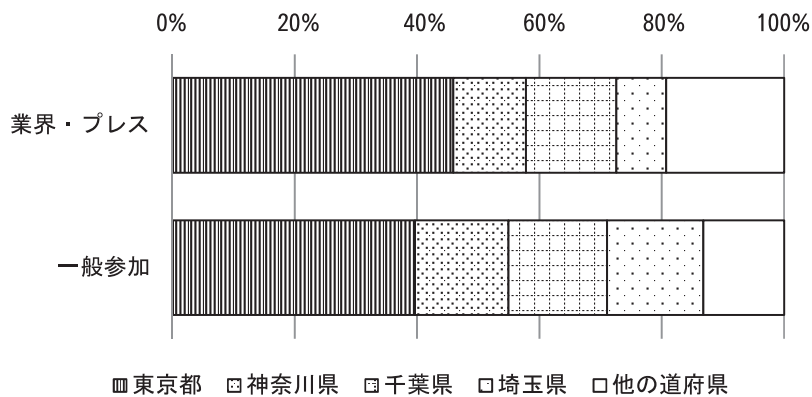
図表 3.2 年代

		年代							合計
		19 歳 以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳 以上	
区分	業界・プレス	3	44	36	22	19	10	5	139
	一般参加	15	31	60	67	58	16	2	249



図表 3.3 居住地

		居住地					合計
		東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	他の道府県	
区分	業界・プレス	62	16	20	11	26	135
	一般参加	96	37	39	38	32	242



3.3 北海道・北東北の縄文遺跡群の認知度

知っている「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、368人の複数回答で、「大船遺跡（函館）」52人（14.1%）、「垣ノ島遺跡（函館）」21人（5.7%）、「キウス周堤墓群（千歳）」25人（6.8%）、「北黄金貝塚（伊達）」9人（2.4%）、「入江・高砂貝塚（洞爺湖）」19人（5.1%）、「三内丸山遺跡（青森）」132人（35.9%）、「小牧野遺跡（青森）」10人（2.7%）、「大森勝山遺跡（弘前）」11人（3.0%）、「是川石器時代遺跡（八戸）」9人（2.4%）、「田小屋野貝塚（つがる）」5人（1.4%）、「亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる）」44人（12.0%）、「太平山元遺跡（外ヶ浜町）」7人（1.9%）、「ニッ森貝塚（七戸）」17人（4.6%）、「御所野遺跡（一戸）」8人（2.2%）、「大湯環状列石（鹿角）」12人（3.3%）、「伊勢堂岱遺跡（北秋田）」8人（2.2%）、「いずれもない」143人（38.9%）。全く知らない人が4割であり、知っているのは「三内丸山遺跡」が3人に1人である。「大船遺跡」、「亀ヶ岡石器時代遺跡」が10数%で続く。「北海道・北東北縄文遺跡群」はあまり知られていない。

業界・プレス、一般参加を比べると、業界・プレスで「三内丸山遺跡」が多く、「いずれもない」が少なくなっているが実質的効果はあまり見られない（「三内丸山遺跡」は $\chi^2=5.69$ 、 $df=1$ 、 $p<0.05$ 、ES: $\phi=0.02$ 、 $1-\beta=0.07$ 、「いずれもない」は $\chi^2=4.41$ 、 $df=1$ 、 $p<0.05$ 、ES: $\phi=0.11$ 、 $1-\beta=0.58$ ）【図表3.4】。つまり、業界・プレスと一般参加はあまり変わらず、業界・プレスにおいても「北海道・北東北縄文遺跡群」が知られていない。

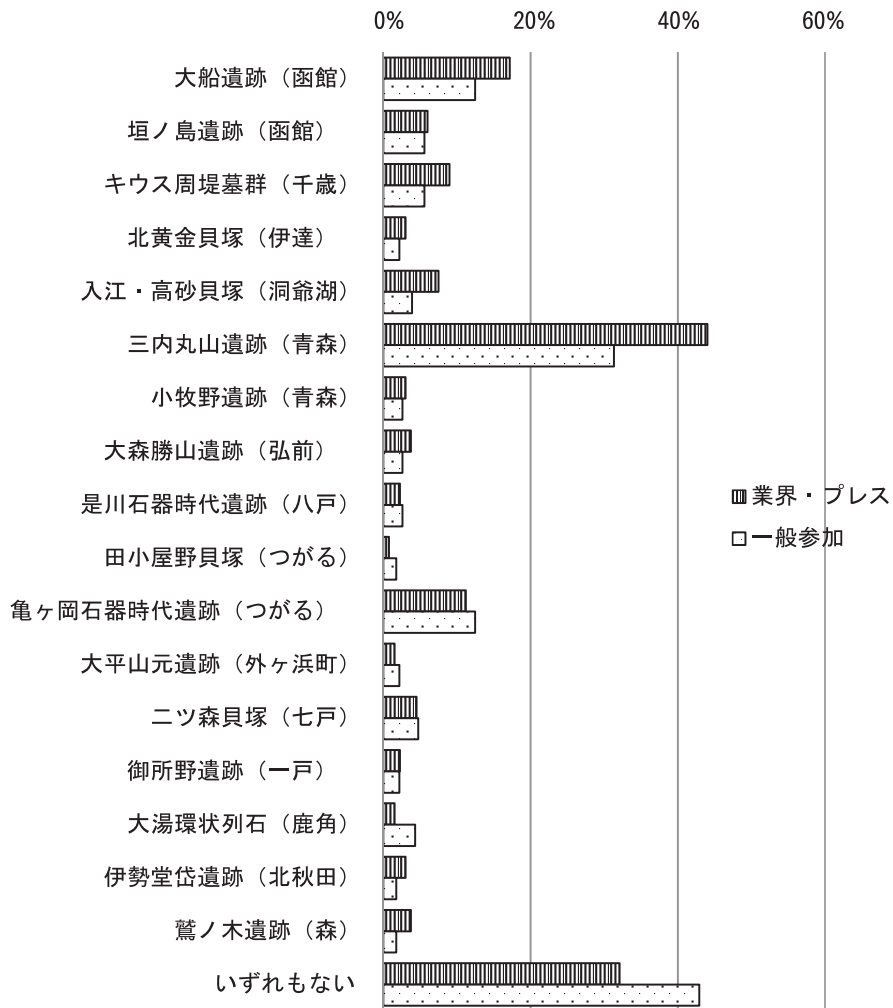
性別を見ると、「北黄金貝塚」、「三内丸山遺跡」、「小牧野遺跡」を知っているのは男性で多く（「北黄金貝塚」男性5.0%、女性0.9%、Fisherの直接法 $p<0.05$ 、「三内丸山遺跡」男性45.4%、女性28.9%、 $\chi^2=9.19$ 、 $df=1$ 、 $p<0.01$ 、ES: $\phi=0.16$ 、 $1-\beta=0.72$ 、「小牧野遺跡」男性5.0%、女性1.3%、Fisherの直接法 $p<0.05$ ）、「いずれもない」が男性で少ない（男性27.7%、女性46.0%、Fisherの直接法 $p<0.01$ ）。

年代別に見ると、「三内丸山遺跡」、「亀ヶ岡石器時代遺跡」を知っているのは29歳以下で多く、30代・40代で少ない（「三内丸山遺跡」29歳以下59.8%、30代・40代25.3%、50歳以上32.4%、 $\chi^2=31.8$ 、 $df=2$ 、 $p<0.01$ 、残差分析で29歳以下、30代・40代ともに $p<0.01$ 、ES:Cramer'sV=0.30、 $1-\beta=1.00$ 、「亀ヶ岡石器時代遺跡」29歳19.8%、30代・40代8.2%、50歳以上11.7%、 $\chi^2=7.46$ 、 $df=2$ 、 $p<0.05$ 、残差分析で29歳以下 $p<0.01$ 、30代・40代 $p<0.05$ 、ES:Cramer'sV=0.14、 $1-\beta=0.70$ ）、「いずれ

もない」は29歳以下で少なく、30代・40代で多くなっている（29歳以下19.6%、30代・40代51.2%、50歳以上36.3%、 $\chi^2=25.63$ 、 $df=2$ 、 $p<0.01$ 、残差分析で29歳以下、30代・40代ともに $p<0.01$ 、ES:Cramer'sV=0.27、 $1-\beta=0.99$ ）。

図表 3.4 北海道・北東北の縄文遺跡群の認知度

		区分	
		業界・プレス (n=134)	一般参加 (n=233)
知っている 遺跡	大船遺跡	23	29
	垣ノ島遺跡	8	13
	キウス周堤墓群	12	13
	北黄金貝塚	4	5
	入江・高砂貝塚	10	9
	三内丸山遺跡	59	73
	小牧野遺跡	4	6
	大森勝山遺跡	5	6
	是川石器時代遺跡	3	6
	田小屋貝塚	1	4
	亀ヶ岡石器時代遺跡	15	29
	大平山元遺跡	2	5
	二ツ森遺跡	6	11
	御所野遺跡	3	5
	大湯環状列石	2	10
	伊勢堂岱遺跡	4	4
	鷲ノ木遺跡	5	4
	いずれも知らない	43	100



3.4 世界遺産登録を目指していることの認知度・知った経緯

北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産への登録を目指していることを知っているのは70人（18.0%）。知っているの2割しかない。

世界遺産への登録を目指していることを知っているのは、業界・プレス139人のうち27人（19.4%）、一般参加250人のうち43人（17.2%）と差は見られない（ $\chi^2=0.30$ 、 $df=1$ 、 $p>0.05$ 、ES: $\phi=0.28$ 、 $1-\beta=0.99$ ）【図表3.5】。業界・プレス、一般参加ともに、世界遺産への登録を目指していることがあまり知られていない。

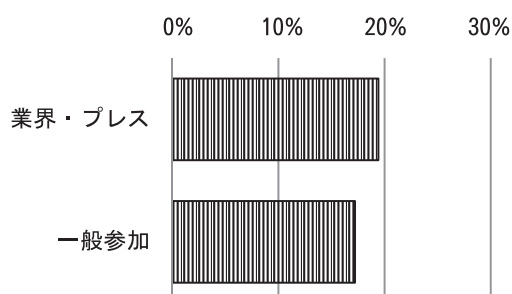
性別で見ると、世界遺産への登録を目指していることを知っているのは男性26.5%、女性12.6%で、男性の方が多い（ $\chi^2=12.11$ 、 $df=1$ 、 $p<0.01$ 、ES: $\phi=0.18$ 、 $1-\beta=0.88$ ）。

年代別に見ると、世界遺産への登録を目指していることを知っているのは29歳以下21.5%、30代・40代14.7%、50歳以上21.1%で差は見られない（ $\chi^2=2.84$ 、 $df=2$ 、 $p>0.05$ 、ES:Cramer'sV=0.21、 $1-\beta=0.97$ ）。

北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産への登録を目指していることを知っている人が知った経緯は、70人の複数回答で、「テレビ・新聞」39人（55.7%）、「インターネット」20人（28.6%）、「授業や講演会等」8人（11.4%）、「ポスター・看板」3人（4.3%）、「家族・知人」4人（5.7%）、「他」2人（2.9%）。「テレビ・新聞」が6割近く、「インターネット」が3割である。「他」はパンフレットであった。メディア等を通じて、世界遺産への登録を目指していることを知っている。

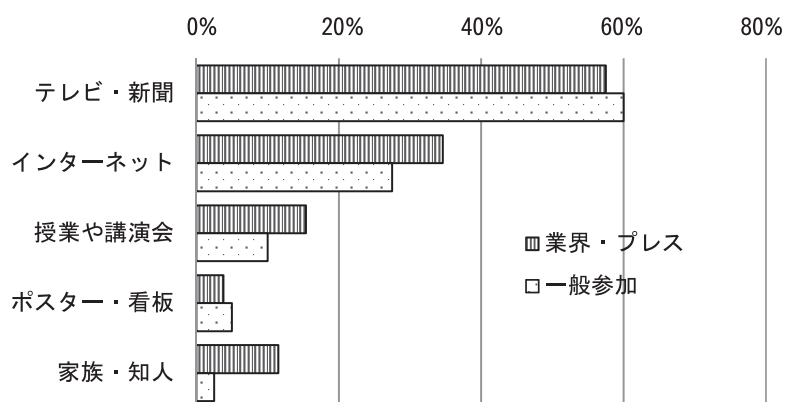
業界・プレス、一般参加で差は見られない（いずれもFisherの直接法 $p>0.05$ ）【図表3.6】。つまり、業界・プレス、一般参加ともに、メディア等を通じて、世界遺産への登録を目指していることを知っているのである。

図 3.5 世界遺産への登録を目指していることの認知度



図表 3.6 世界遺産への登録を目指していることを知った経緯

		区分	
		業界・プレス (n=26)	一般参加 (n=40)
知った 経緯	テレビ・新聞	15	24
	インターネット	9	11
	授業や講演会	4	4
	ポスター・看板	1	2
	家族・知人	3	1



3.5 まとめ

北海道・北東北の縄文遺跡群の認知度は低い。知っているのは「三内丸山遺跡」が3人に1人である。北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産への登録を目指していることを知っているのは2割しかない。

積極的な広報が求められるが、業界・プレスにおいても認知度が低いことから、招待や説明会、グッズの進呈等、業界・プレスに焦点をしばった広報活動が求められる。北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産を目指していることを知った経緯は、テレビ・新聞、インターネットが多く、メディア等を通じて一般にも広まるものと考えられる。

4. 地元での意識

4.1 調査方法

2017年11月、函館で行われた縄文文化関連イベントにおいて来場者アンケートを行った。

調査項目は、回答者基本属性（性別、年代、居住地）、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の認知度、世界遺産登録を目指していることの認知度・知った経緯、地元の縄文文化関連施設への関心、世界遺産登録への期待と活動である。

来場は函館市以外からも見られたが、函館市民について集計を行った。なお、縄文文化関連イベントの参加者であり、「北海道・北東北の縄文遺跡群」への関心等が高いことが想定されるため、配慮して考察を行う。

4.2 回答者基本属性

回収数103人。

男性68人（66.7%）、女性34人（33.3%）【図4.1】。男性が7割であった。

19歳以下3人（3.0%）、20代9人（8.9%）、30代4人（4.0%）、40代20人（19.8%）、50代19人（18.8%）、60代21人（20.8%）、70歳以上25人（24.8%）【図4.2】。70歳以上が1/4、60代、40代、50代の順であった。中高年者が多いものの、19歳以下もあり幅広い年代にわたっていた。

図 4.1 性別

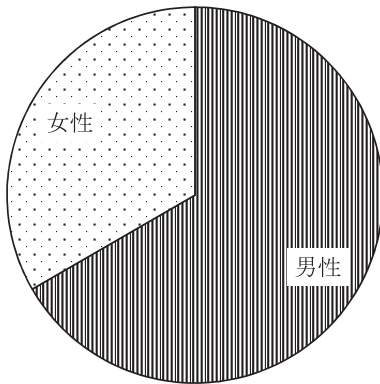
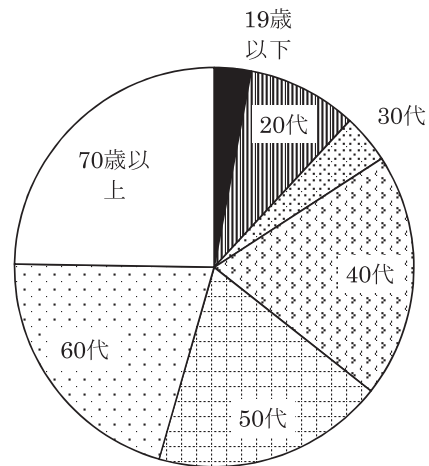


図 4.2 年代

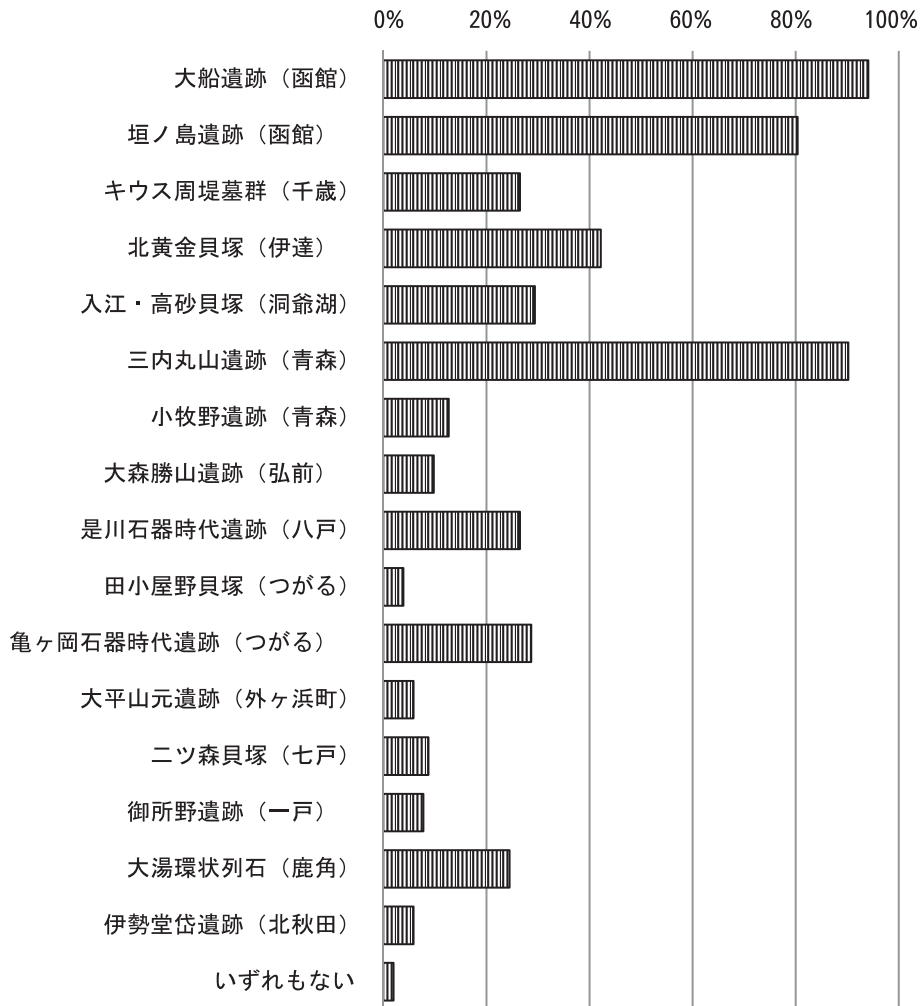


4.3 北海道・北東北の縄文遺跡群の認知度

知っている「北海道・北東北の縄文遺跡群」は102人の複数回答で、「大船遺跡（函館）」96人（94.1%）、「垣ノ島遺跡（函館）」82人（80.4%）、「キウス周堤墓群（千歳）」27人（26.5%）、「北黄金貝塚（伊達）」43人（42.2%）、「入江・高砂貝塚（洞爺湖）」30人（29.4%）、「三内丸山遺跡（青森）」92人（90.2%）、「小牧野遺跡（青森）」13人（12.7%）、「大森勝山遺跡（弘前）」10人（9.8%）、「是川石器時代遺跡（八戸）」27人（26.5%）、「田小屋野貝塚（つがる）」4人（3.9%）、「亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる）」29人（28.7%）、「大平山元遺跡（外ヶ浜町）」6人（5.9%）、「二ツ森貝塚（七戸）」9人（8.8%）、「御所野遺跡（一戸）」8人（7.8%）、「大湯環状列石（鹿角）」25人（24.5%）、「伊勢堂岱遺跡（北秋田）」6人（5.9%）、「いずれもない」2人（2.0%）【図4.3】。「大船遺跡」が9割を超えており、「垣ノ島遺跡」が8割である。他に「三内丸山遺跡」が9割、「北黄金貝塚」が4割である。

縄文文化への関心が高い人たちであり、地元の「大船遺跡」、「垣ノ島遺跡」は知られている。加えて、比較的近くの「三内丸山遺跡」、「北黄金貝塚」等が高くなっている。

図 4.3 北海道・北東北の縄文遺跡群の認知度



4.4 世界遺産登録を目指していることの認知度

世界遺産への登録を目指していることを知っているのは91人（88.3%）【図4.4】。知っているのは9割近い。

縄文文化への関心が高い人たちであり、地元の「大船遺跡」や「垣ノ島遺跡」を含む「北海道・北東北縄文遺跡群」が世界遺産への登録を目指していることを多くが知っている。

世界遺産への登録を目指していることを知っている人が知った経緯は、89人の複数回答で、「テレビ・新聞」70人（78.7%）、「インターネット」15人（16.9%）、「授業や講演会等」31人（34.8%）、「ポスター・看板」28人（31.5%）、「家族・知人」10人（11.2%）、「他」5人（5.6%）【図4.5】。「テレビ・新聞」が8割であり、「授業や講演会等」、「ポスター・看板」の順であった。

メディアだけでなく、地元の啓発活動である授業や講演会、ポスター・看板等で知っている人も多くなっている。啓発活動は成果を上げていると考えられる。

図4.4 世界遺産への登録を目指していることの認知度

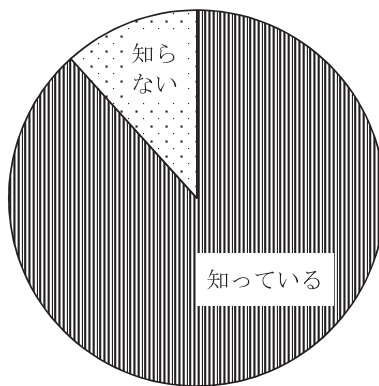
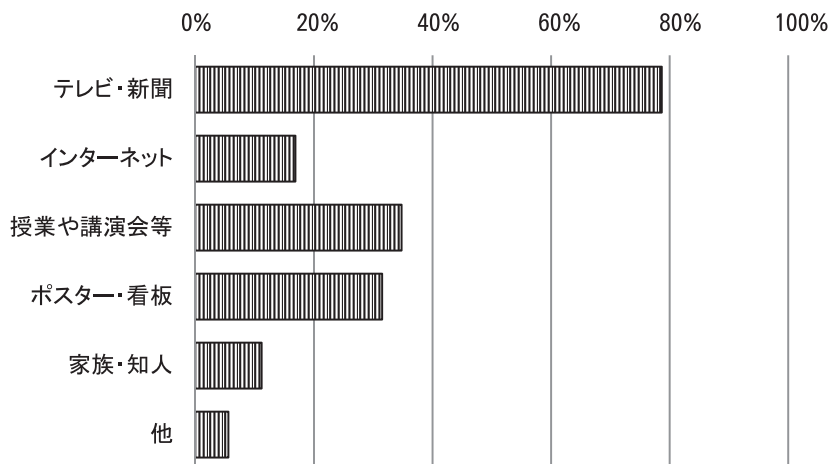


図4.5 世界遺産への登録を目指していることを知った経緯



4.5 地元の縄文文化関連施設への関心・知った経緯

地元の縄文文化関連施設について「函館の大船遺跡・垣ノ島遺跡の近くに函館市縄文文化交流センターがあり、中空土偶、足形・手形付き土製品を見ることができます」と説明した上で、何に関心があるか尋ねると、101人の複数回答で、「大船遺跡（ガイド付き見学あり）」74人（73.3%）、「垣ノ島遺跡（2020年に向けて整備中、現在は遠景の見学のみ）」65人（64.4%）、「中空土偶（国宝）」84人（83.2%）、「足形・手形付土製品（重要文化財、当時の子どもの足形や手形を記念として押し付けたもの）」58人（57.4%）、「縄文文化交流センターの他の資料」38人（37.6%）、「付属の道の駅やグッズ・ガイドブック」22人（21.8%）、「縄文ペンダントづくり等の体験」24人（23.8%）、「いずれもない」3人（3.0%）【図4.6】。「中空土偶」が8割、「大船遺跡」が7割、「垣ノ島遺跡」と「足形・手形付土製品」が6割である。

縄文文化への関心が高い人たちであり、遺跡や国宝・重要文化財等を中心に関心が高くなっている。

地元の縄文文化関連施設を訪れたいか尋ねると、「行ったことがある」58人（74.4%）、「行ったことはないが行ってみたい」11人（14.1%）、「世界遺産になれば行ってみたい」2人（2.6%）、「函館以外の遺跡に行ってみたい」4人（5.1%）、「関心はない」3人（3.8%）【図4.7】。「行ったことがある」が3/4であり、「行ったこと

はないが行ってみたい」が1割である。

縄文文化への関心が高い人たちであり、行ったことがある人が多く、行ったことがなくても「行ったことはないが行ってみたい」が多くなっている。

図 4.6 地元の縄文文化関連施設で関心があるもの

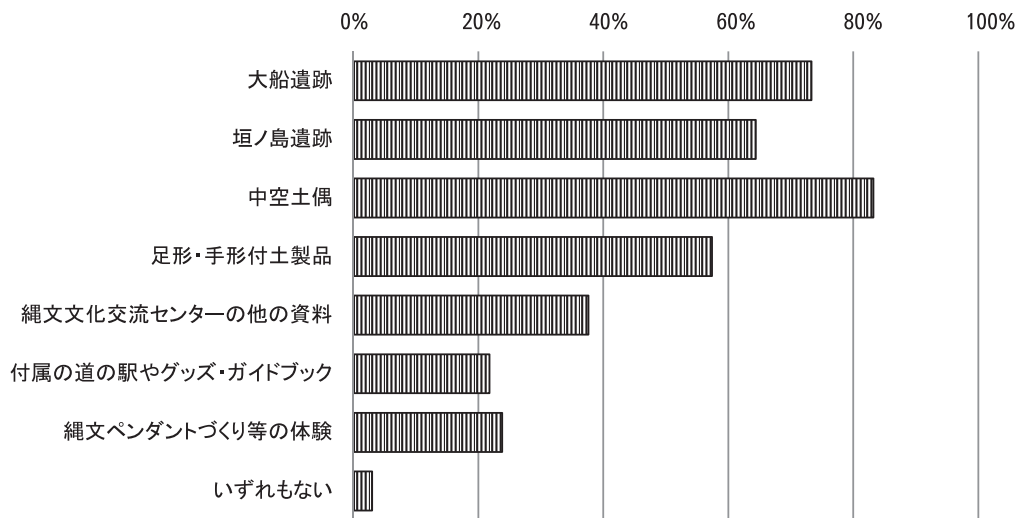
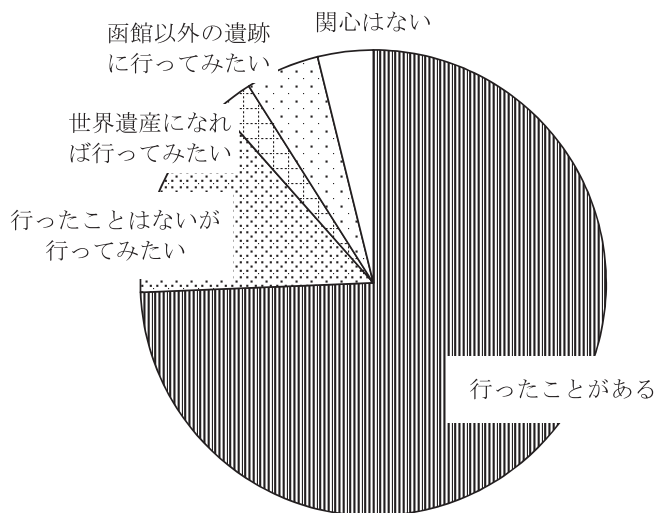


図 4.7 地元の縄文文化関連施設への訪問



4.6 世界遺産登録への期待と活動

世界遺産に登録されたら地元で期待できることを尋ねたところ、96人の複数回答で、「観光客が増える」66人（68.8%）、「地元の認知度が上がる」60人（62.5%）、「遺跡等が調査・保存される」71人（74.0%）、「関連産業の雇用が増える」20人（20.8%）、「期待できることはない」1人（1.0%）【図4.8】。「遺跡等が調査・保存される」が多く、「観光客が増える」、「地元の認知度が上がる」が続く。

遺跡等の調査・保存とともに、観光や地元の認知度が期待されている。

同様に、世界遺産登録に向けて活動していることを尋ねると、96人の複数回答で、「観光ガイド等をしている」3人（3.1%）、「寄付をしている」3人（3.1%）、「学習会等に参加している」37人（38.5%）、「他」3人（3.0%）、「活動したいがしていない」21人（21.9%）、「活動していない」36人（37.5%）【図4.9】。「学習会等に参加している」が4割であり、観光ガイド等は数%である。「活動したいがしていない」が2割ある。「他」にはユネスコ会員等があった。

縄文文化への関心の高い人たちであり、学習会等への参加はあるが、観光ガイドや寄付等はわずかであり、活動したいがしていないが5人に1人にのぼっている。

図 4.8 世界遺産登録によって地元で期待できること

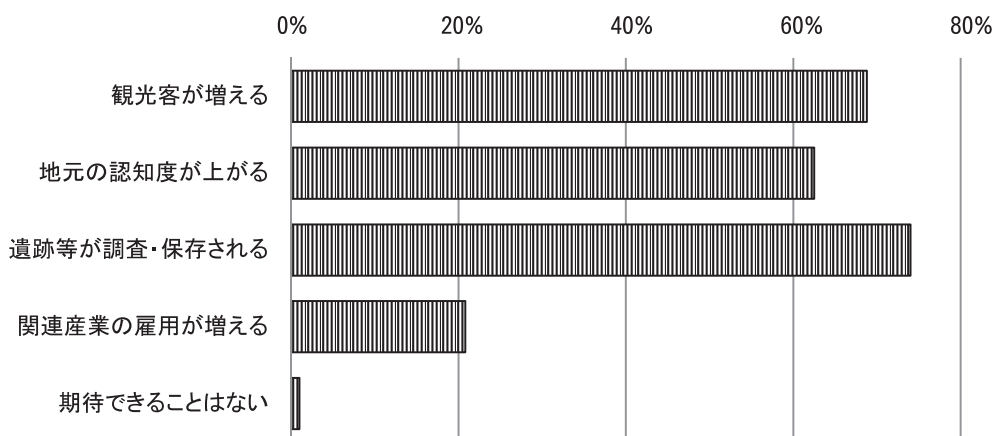
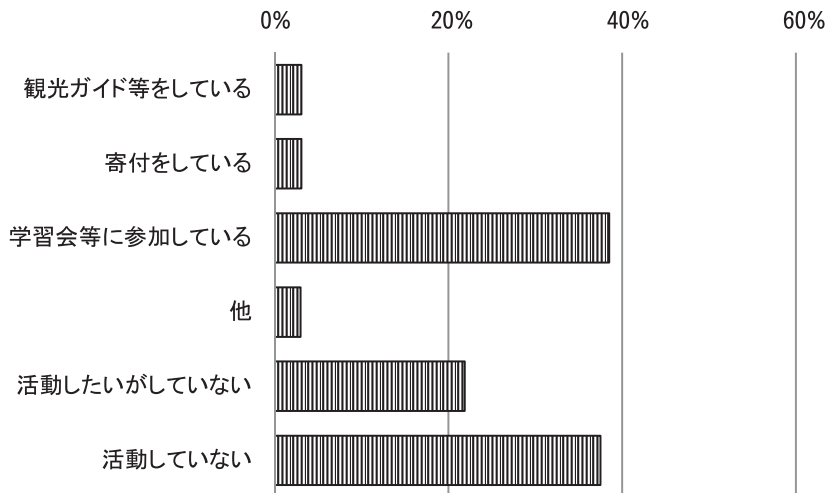


図 4.9 世界遺産登録に向けた取り組み



4.7 まとめ

縄文文化関連イベントの来場者に対するアンケートであり、「北海道・北東北縄文遺跡群」が世界遺産を目指していることを9割が知っていた。地元の縄文文化関連施設には7割が行ったことがあり、行ったことがない人も「行ったことはないが行ってみたい」という人が多くなっていた。世界遺産によって地元で期待できることを尋ねると、遺跡等の調査・保存に加えて、観光客や地元のPR効果が期待されていた。ただし、世界遺産に向けた活動については、学習会等への参加はあるものの、観光ガイドや寄付等は低く、「活動したいがしていない」が5人に1人である。

認知度は高く、関心もあるものの、世界遺産登録に向けた活動に参加できていないことがわかる。観光ガイドや学習会等、これまで以上に参加する機会や仕組みが求められる。

5. 縄文文化関連施設の観光客の意識

5.1 調査方法

2017年5～6月、函館市の縄文文化関連施設である「縄文文化交流センター」で観光客に対してアンケートを行った。

調査項目は、回答者基本属性（性別、年代、居住地）、「北海道・北東北縄文遺跡群」の訪問経験、世界遺産登録を目指していることの認知度・関心、当該施設への関心・移動手段・同行者、周遊観光等である。

なお、当該施設は、函館市街地から離れており、車で60分、路線バスで90分以下車後徒歩15分である。路線バスは一日数本である。一部のツアーバスが訪れている。近隣の観光スポットに、恵山、道の駅なとわ・えさん、水無海浜温泉、銚子岬サーフビーチ、川汲温泉、大船温泉・南かやべ保養センター、南かやべ漁協直販加工センター、道の駅・しかべ間歇泉公園等がある。

5.2 回答者基本属性

回収数147人。

男性79人（54.5%）、女性66人（45.5%）【図5.1】。男女半数ずつくらいである。

年代は19歳以下15人（10.3%）、20代11人（7.5%）、30代12人（8.2%）、40代18人（12.3%）、50代27人（18.5%）、60代44人（30.1%）、70歳以上19人（13.0%）【図5.2】。60代が3割であり、年配者が多くなっている。

居住地は函館以外道内96人（65.3%）、道外51人（34.7%）【図5.3】。函館以外道内は近隣の北斗市5人、七飯町2人、江差町2人等だけでなく、遠方の札幌市41人、小樽市5人、北広島市3人等であった。道外は東京12人、岩手県4人、福島県5人等であった。

5.3 「北海道・北東北縄文遺跡群」の訪問経験

これまでに訪問したことがある「北海道・北東北縄文遺跡群」は、146人の複数回答で、「大船遺跡（函館）」32人（21.9%）、「垣ノ島遺跡（函館）」2人（1.4%）、「キウス周堤墓群（千歳）」11人（7.5%）、「北黄金貝塚（伊達）」21人（14.4%）、「入江・高砂貝塚（洞爺湖）」7人（4.8%）、「三内丸山遺跡（青森）」50人（34.2%）、「小牧野遺跡（青森）」2人（1.4%）、「大森勝山遺跡（弘前）」2人（1.4%）、「是川石

器時代遺跡（八戸）」4人（2.7%）、「田小屋野貝塚（つがる）」1人（0.7%）、「亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる）」6人（4.1%）、「大平山元遺跡（外ヶ浜町）」3人（2.1%）、「二ツ森貝塚（七戸）」2人（1.4%）、「御所野遺跡（一戸）」3人（2.1%）、「大湯環状列石（鹿角）」12人（8.2%）、「伊勢堂岱遺跡（北秋田）」2人（1.4%）、「いずれもない」69人（47.6%）【図5.4】。「いずれもない」が半数近い。「三内丸山遺跡」が3割であり、「大船遺跡」、「北黄金貝塚」が続く。同じ函館の「垣ノ島遺跡」は数%である。

当該施設は縄文文化関連施設であるが、特に他の遺跡と合わせて訪問されているわけではないことがわかる。現状では「北海道・北東北縄文遺跡群」の一連の縄文文化関連施設として関心のある人が訪問するところにはなっていない。

図5.1 性別

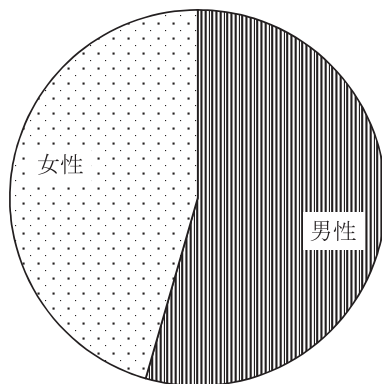


図5.2 年代

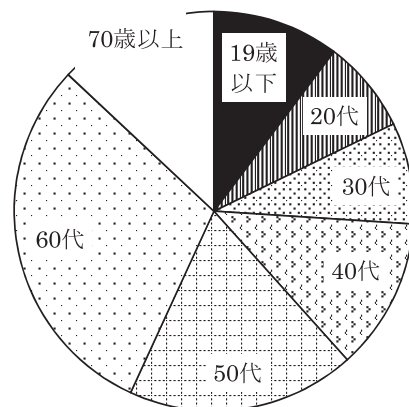


図5.3 居住地

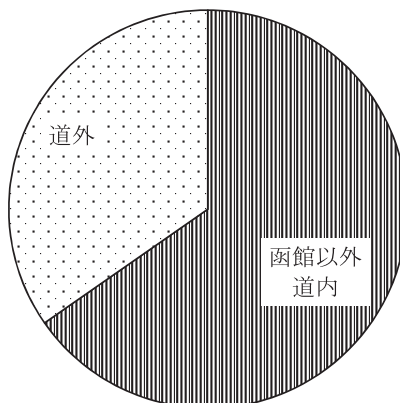
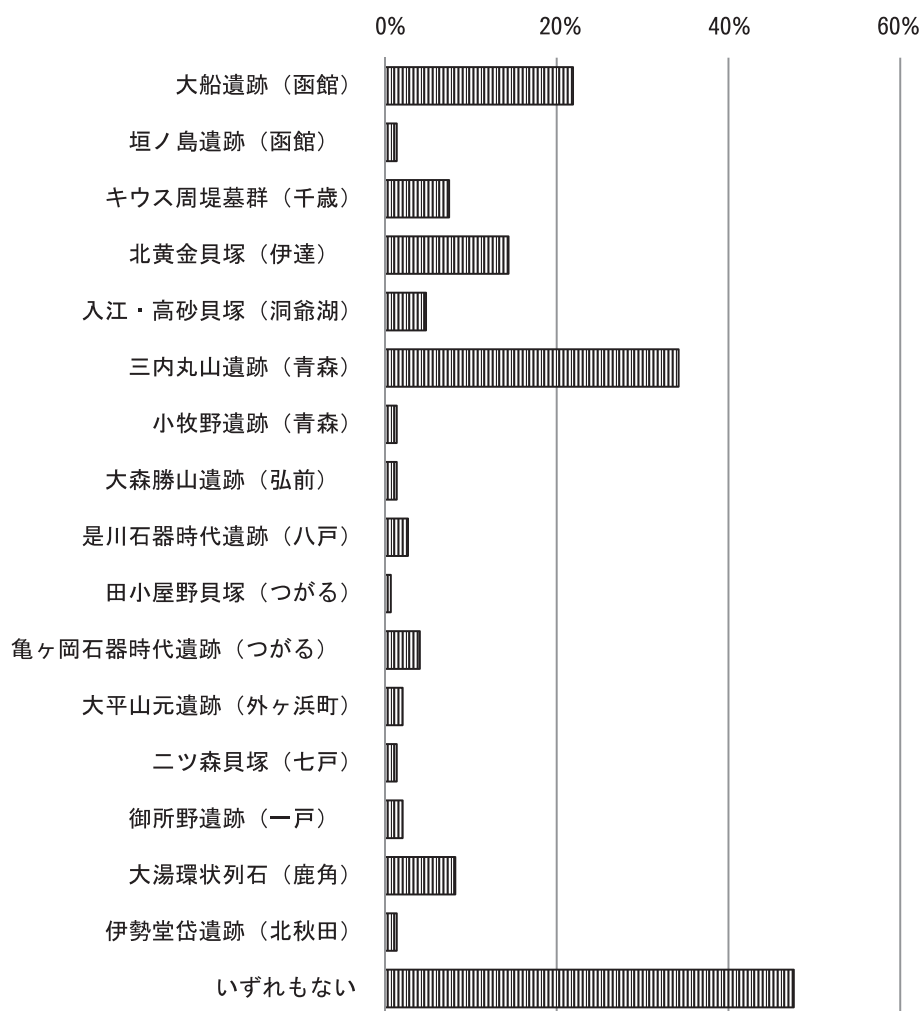


図 5.4 訪問したことがある「北海道・北東北の縄文遺跡群」



5.4 世界遺産登録を目指していることの認知度と関心

「北海道・北東北縄文遺跡群」が世界遺産への登録を目指していることを知っているのは57人（39.9%）である【図5.5】。知っているのは4割であった。

当該施設は縄文文化関連施設であるが、特に「北海道・北東北縄文遺跡群」や世界遺産とは関連なく訪問されていることがわかる。

世界遺産への登録を目指していることを説明した上で、登録されたら行ってみたいか尋ねると、「行きたい」60人（43.2%）、「関心はある」67人（48.2%）、「関心はない」12人（8.6%）【図5.6】。4割が「行きたい」と回答していた。

世界遺産への登録を目指していることを知っている人が少なくても、登録されたら「行きたい」または「関心はある」人が多くなっている。世界遺産への登録は、当該施設を含めて「北海道・北東北縄文遺跡群」へ関心を持ち、改めて訪れる機会になると考えられる。

図5.5 世界遺産への登録を目指していることの認知度

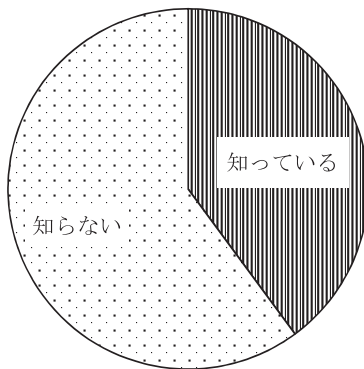
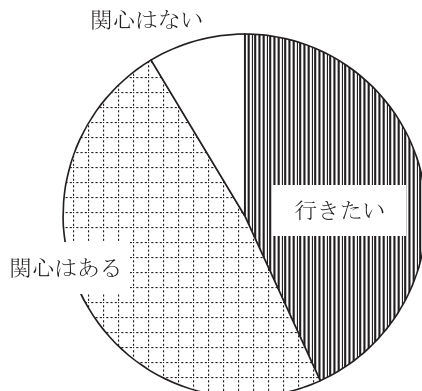


図5.6 世界遺産登録後の「北海道・北東北の縄文遺跡群」への訪問希望



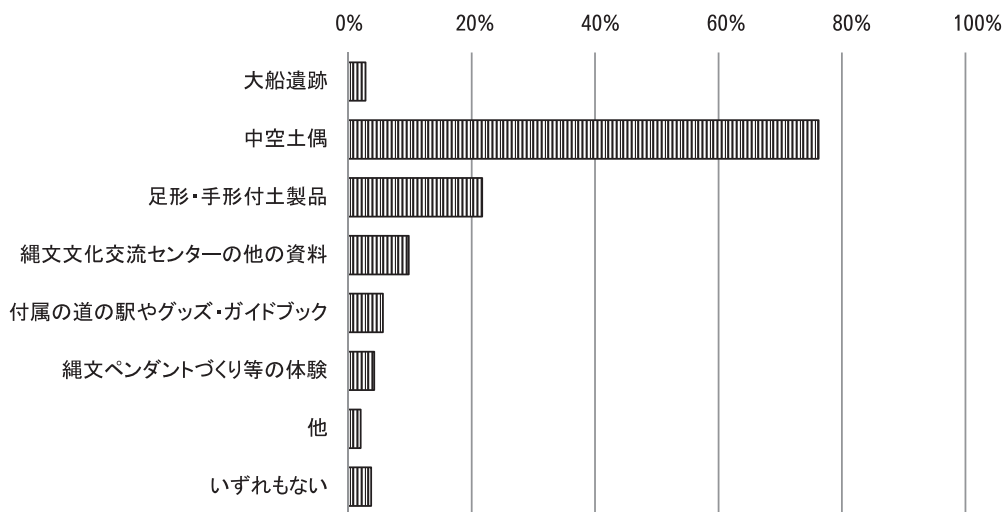
5.5 当該施設での関心、知った経緯

アンケートを行った函館市縄文文化交流センターで関心があるものを尋ねると、143人の複数回答で、「大船遺跡（ガイド付き見学あり）」4人（2.8%）、「中空土偶（国宝）」109人（76.2%）、「足形・手形付土製品（重要文化財、当時の子どもの足形や手形を記念として押し付けたもの）」31人（21.7%）、「縄文文化交流センターの他の資料」14人（9.8%）、「付属の道の駅やグッズ・ガイドブック」8人（5.6%）、「縄文ペンダントづくり等の体験」6人（4.2%）、「他」3人（2.0%）、「いずれもない」5人（3.7%）【図5.7】。「中空土偶」が8割近いが、「足形・手形付土製品」が2割であり、他は10%以下とわずかである。

「中空土偶」以外の展示やプログラムは、当該施設を訪れた人にあまり関心を持たれていないことがわかる。

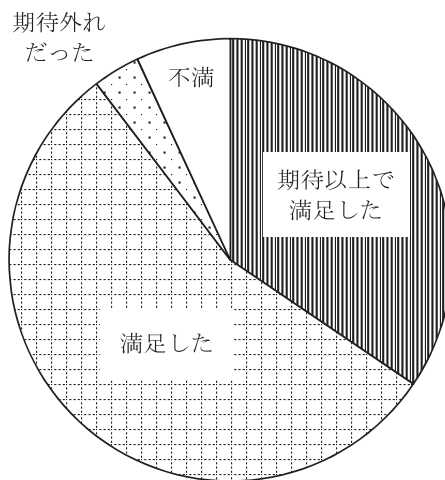
なお、「大船遺跡」は世界遺産への登録を目指している「北海道・北東北縄文遺跡群」の17遺跡のうちの一つであるが、当該施設から車で数分であり徒歩圏にはない。当該施設から見えないこともあり、関心が低くなっていることが考えられる。

図5.7 縄文文化関連施設で関心があるもの



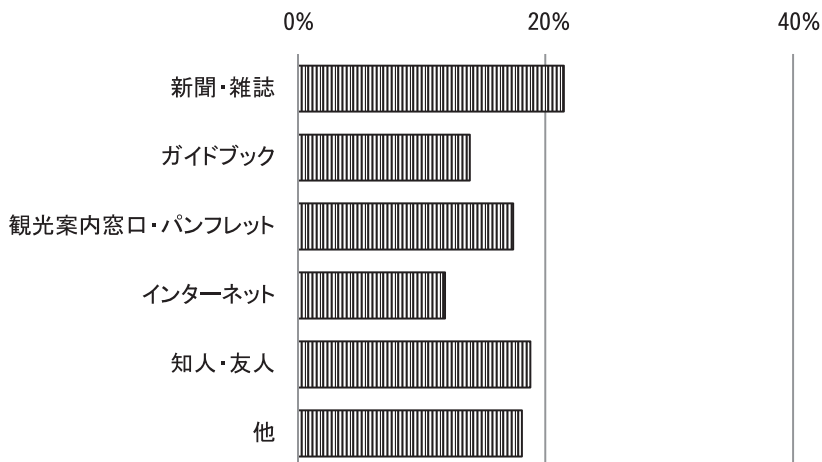
当該施設と合わせて大船遺跡を訪れた29人に大船遺跡の満足度を尋ねると、「期待以上で満足した」10人（34.5%）、「満足した」16人（55.2%）、「期待外れだった」1人（3.4%）、「不満」2人（6.9%）であった【図5.8】。「期待以上で満足した」、「満足した」が多くなっており、当該施設と合わせて大船遺跡を訪れる移動手段を準備する必要がある。また「期待外れだった」、「不満」もあり、改善が求められる。

図 5.8 大船遺跡の満足度



なお、当該施設を知った経緯は、144人の複数回答で、「新聞・雑誌」31人（21.5%）、「ガイドブック」20人（13.9%）、「観光案内窓口・パンフレット」25人（17.4%）、「インターネット」17人（11.9%）、「知人・友人」27人（18.8%）、「他」26人（18.1%）【図5.9】。「他」は通りすがりに見つけた、道の駅に来た等であった。「新聞・雑誌」、「知人・友人」、「観光案内窓口・パンフレット」が2割である。メディアや口コミで知っていることがわかる。観光に関連する案内窓口、ガイドブック等は比較的少なく、観光につなげるかたちでの広報が必要である。

図 5.9 縄文文化関連施設を知った経緯



5.6 移動手段、同行者

当該施設への主な移動手段は、「自家用車」114人（80.9%）、「レンタカー」22人（15.6%）、「路線バス」2人（1.4%）、「ツアーバス」0人（0.0%）、「他」3人（2.1%）【図5.10】。「他」は自転車等であった。観光客であるが「自家用車」が9割である。路線バスの本数が少ないため、自家用車が中心になっている。

当該施設への同行者は、「一人で来た」16人（11.6%）、「家族と」111人（80.4%）、「友人・知人と」11人（18.0%）、「ツアーや団体」0人（0.0%）【図5.11】。「家族と」が8割であるが、「一人で来た」人もいる。

図 5.10 移動手段

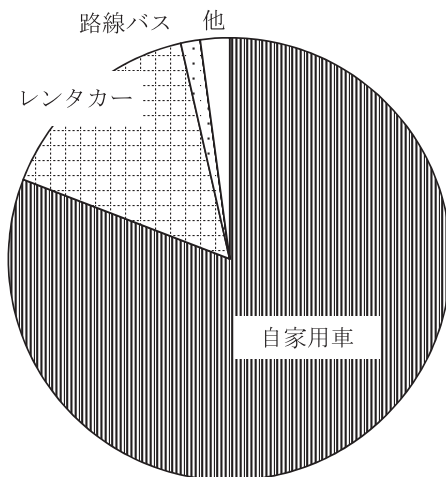
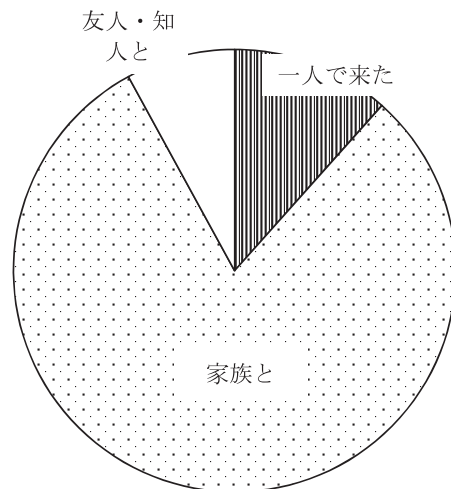


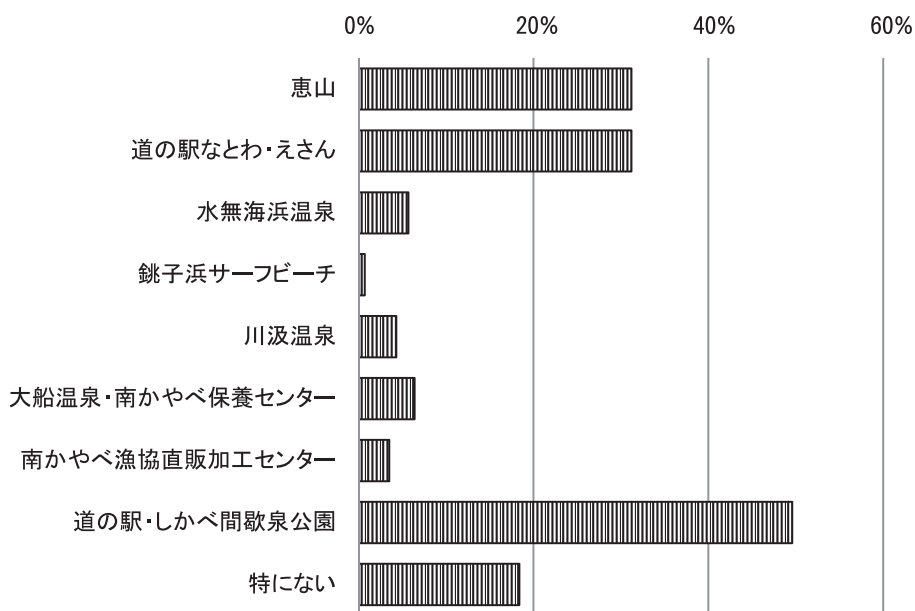
図 5.11 同行者



5.7 周遊観光

今回の旅行で当該施設周辺で訪れるところを尋ねると、141人の複数回答で、「恵山」44人（31.2%）、「道の駅なとわ・えさん」44人（31.2%）、「水無海浜温泉」8人（5.7%）、「銚子浜サーフビーチ」1人（0.7%）、「川汲温泉」6人（4.3%）、「大船温泉・南かやべ保養センター」9人（6.4%）、「南かやべ漁協直販加工センター」5人（3.5%）、「道の駅・しかべ間歇泉公園」70人（49.6%）、「特にない」26人（18.4%）【図5.12】。8割が当該施設だけでなく、近隣の観光スポットを訪れている。「道の駅・しかべ間歇泉公園」が半数、「恵山」、「道の駅なとわ・えさん」が3割である。

図 5.12 今回の旅行で縄文文化関連施設周辺で訪れるところ



5.8 まとめ

当該施設は、現状において、「北海道・北東北縄文遺跡群」の一連の施設としてとらえられておらず、個々の関連施設や遺跡だけでなく、「北海道・北東北縄文遺跡群」を包括的につなげる広報活動が求められる。

世界遺産への登録を目指していることを知っている人は4割であるが、登録されたら訪問したい、または関心がある人が多くなっている。世界遺産への登録は「北海道・北東北縄文遺跡群」を改めて訪れる機会になると考えられる。

当該施設への主な移動手段は自家用車が中心であり、近隣の「大船遺跡」は徒歩圏にはない。「大船遺跡」への移動を含めて、世界遺産登録に向けて交通手段を準備する必要がある。

また、当該施設については、「中空土偶（国宝）」以外は関心を持たれていない現状があり、家族づれが多いことから、家族で楽しめる展示やプログラムが求められる。

観光に関連して、当該施設はメディアや口コミで知った人が多く、観光窓口やガイドブック等での広報が比較的少ない。当該施設を訪れた人の多くは近隣の観光スポットを訪れており、関連して広報していくことが考えられる。

注記

- 1) 青森県：縄文土偶図鑑「ド・グウ」、＜http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikaku/sekaiisan/files/dogoo_all.pdf、2017.3.15確認＞、2017年
- 2) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局：北海道・北東北の縄文遺跡群リーフレットシリーズ、＜<http://jumon-japan.jp/library/material>、2017.3.15確認＞、2017年
- 3) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局：世界遺産日本代表候補縄文JAPAN2017、＜http://jomon-japan.jp/wp-content/uploads/2016/12/2017_jomon-tokyo-forom.pdf＞、2016年
- 4) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局：北海道・北東北の縄文遺跡群キッズサイトJOMONぐるぐる、＜<http://jomon-japan.jp/kids/>、2017.3.15確認＞
- 5) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局：世界遺産登録候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」YOUTUBE映像、＜<https://www.youtube.com/watch?v=xxaaBnn8iE0&feature=youtu.be>、2017.3.15確認＞
- 6) 北海道：「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録推進フォーラム、＜<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/2016chirashi-asahikawa.pdf>、2017.3.15確認＞。2016

年

- 7) 北海道:縄文遺跡をめぐるツアー「縄文旅」パンフレット、<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/jomontabi_course2.pdf、2017.3.15確認>、2016年
- 8) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局の訪問インタビューによる
- 9) 青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室:縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた取組について、2017年
- 10) 青森県:青森県景観計画策定ガイドライン、<<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/toshikei/files/C4-kaitei.pdf>、2017.3.15確認>、2013年
- 11) 岩手県:「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録をめざして、<http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/051/412/img08313.pdf、2017.3.15確認>、2016年
- 12) 秋田県:北海道・北東北の縄文遺跡群 世界遺産登録推進フォーラム、<https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000007837_00/chirashi.pdf、2017.3.15確認>、2014年
- 13) 北の縄文文化回廊、<http://jomon-net.xsrv.jp/jomon_kairou/index.html、2017.3.15確認>
- 14) 是川縄文館のボランティアへのインタビューによる
- 15) 御所野遺跡の訪問インタビューによる
- 16) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局:北海道・北東北の縄文遺跡群 世界遺産登録の取り組み、<<http://jomon-japan.jp/overview/1-2/>、2017.3.15確認>

文献

- 木曾功 (2015) 『世界遺産ビジネス』、小学館
- 小室充弘 (2015) 「世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究」、『運輸政策研究』17(2)、70～74ページ
- 佐滝剛弘 (2009) 『「世界遺産」の真実 - 過剰な期待、大いなる誤解』、詳伝社
- 澤村明 (2016) 「世界登録遺産と観光動向—日本の10事例から」、『新潟大学経済論究』100、117～128ページ
- 長谷川俊介 (2010) 「世界遺産の普及啓発と教育」『レファレンス』712、5～27ページ
- 読売新聞「韓国政府、遺産登録に反対せず 日韓協力で一致」2015年6月21日、<<http://www.yomiuri.co.jp/matome/archive/20150622-OYT8T50010.html>、2017年3月15日確認>